



地域医会だより

県央皮膚科医の会

平成26年は、県央皮膚科医の会の講演会を1回と、県央地域の中の大和市で2回の講演会を開催いたしました。

●第8回県央皮膚科医会

日 時：平成26年10月9日（木）

会 場：オークラフロンティアホテル海老名

テーマ：「重症型薬疹の早期確定診断と治療」～新しい知見も含めて～

講 師：昭和大学医学部皮膚科学講座准教授 渡辺秀晃先生

●第5回大和市皮膚科医会

日 時：平成26年6月7日（土）

会 場：小田急ホテルセンチュリー相模大野

テーマ：「子どもの母斑・血管腫」

講 師：神奈川県立こども医療センター皮膚科部長 馬場直子先生

●第6回大和市皮膚科医会

日 時：平成26年11月22日（土）

会 場：小田急ホテルセンチュリー相模大野

テーマ：「身近な抗ヒスタミン薬をよく理解して活用するために」

講 師：東京女子医科大学皮膚科准教授 常深祐一郎先生

（文責：矢口 厚）



地域医会だより

横浜市皮膚科医会

【平成26年度の活動】

①例会と市民公開講座については、3回の例会と各1回の市民公開講座と学術講演会を開催しました。

第137回例会は藤田保健衛生大学の松永佳世子教授をお招きし、タイムリーなカネボウ化粧品による皮膚障害のご講演を頂きました。神奈川県皮膚科医会との共催のもと、「汗」のテーマで行われた第138回例会は、参加者が多く盛会となりました。第139回例会は、横浜市立大学の山口由衣先生が乾癬についての教育講演と、

平成25年度皆見賞受賞の山梨大学の川村龍吉先生による特別講演は、参加者に多くの示唆を与えました。

- ②学術講演会は、埼玉医科大学の中村晃一郎教授による、臨床から見た興味深いアレルギー性皮膚疾患のご講演で、株式会社ポーラファルマとの共催で行われました。
- ③第6回市民公開講座は、神奈川こども医療センターの馬場直子部長による有意義で楽しい内容の講演となり、大変効果的な市民講座となりました。
- ④市医師会学術活動では、tvk健康最前線をけいゆう病院の河原由恵先生にご担当頂きました。第22回横浜臨床医学学術集談会は、宋寅傑先生のご担当で、各医会の先生方に訴える、集談会の目的にマッチした話題提供となりました。また、横浜市医師会の「がんに関する医師研修会」は、横浜市民病院皮膚科の堀内義仁部長にお願いしました。
- ⑤本年度、増田智栄子先生が県知事表彰賞、そして浅井俊弥先生が神奈川県学術功労者表彰・川口賞を受けられました。

訃報：平成26（2014）年8月30日に、名誉会員の平井義雄先生がご逝去なさいました。心からご冥福をお祈り申しあげます。

下記、平成26年度の事業報告をまとめて記載しました。

【平成26年度横浜市皮膚科医会事業報告】

①例会について

・第137回例会

日 時：平成26年4月5日（土）

会 場：関内新井ホール

特別講演：「ロドデノール誘発性脱色素斑の最新情報」

講 師：藤田保健衛生大学教授 松永佳世子先生

参 加 者：41名

・第138回例会

日 時：平成26年7月6日（日）

会 場：関内新井ホール

テ ー マ：「汗」（当番幹事：山川有子先生）

ミニレクチャー：「疥癬 診断のポイントと対策—集団感染への取り組み—」

講 師：いずみ野皮ふ科 増田智栄子先生

講 演 1：「アトピー性皮膚炎 日常診療トピックス—汗・温度に関する最近の知見—」

講 師：大阪大学大学院医学系研究科情報総合医学皮膚科学准教授 室田浩之先生

講 演 2：「汗のトピックス—多汗症・無汗症も含めて—」

講 師：東京医科歯科大学皮膚科教授 横関博雄

参 加 者：158名

・第139回例会

日 時：平成26年10月16日（木）

会 場：ホテルニューグランド

教育講演：「乾癬の病態と合併症から考える治療選択」

講 師：横浜市立大学皮膚科講師 山口由衣先生

特別講演：「亜鉛と皮膚疾患—トランスレーショナル・スタディの実践—」

講 師：山梨大学皮膚科准教授 川村龍吉先生

参 加 者：53名

②横浜市皮膚科医会主催の講演会について

・学術講演会

日 時：平成26年5月22日（木）

会 場：横浜国際ホテル

共 催：ポーラ・ファルマ株式会社

テーマ：「アレルギー性皮膚疾患の最近の知見」

講 師：埼玉医科大学皮膚科教授 中村晃一郎先生

参加者：51名

③第6回市民公開講座について

日 時：平成27年3月8日（日）

会 場：横浜情報文化センター情文ホール

テーマ：「子どものアトピー性皮膚炎とスキンケア」

講 師：神奈川県立こども医療センター皮膚科部長 馬場直子先生

参加者：52名

④横浜市医師会関係事業について

・tvk「健康最前線」「ありがとッ」

日 時：平成26年8月1日（金）、8日（金）

テーマ：「带状疱疹」

担 当：けいゆう病院皮膚科部長 河原由恵先生

・第22回横浜臨床医学学術集談会

日 時：平成26年12月6日（土）

会 場：ホテルキャメロットジャパン

テーマ：「IVRに伴う放射線皮膚障害の診断と治療」

講 師：綱島診療所 そう皮フ科 宋 寅傑先生

・がんに関する医師研修会

日 時：平成27年2月6日（金）

会 場：横浜市医師会会議室

テーマ：「分子標的治療薬による皮膚障害の治療・対策」

講 師：横浜市立市民病院皮膚科部長 堀内義仁先生

参加者：10名

⑤共催

・平成26年4月26（土）、27日（日） 第30回日本臨床皮膚科医会総会

・平成27年1月23（金）、24日（土） 第38回皮膚脈管膠原病研究会

⑥その他

・平成26年8月30日（土） 名誉会員 平井義雄先生ご逝去

・平成26年10月9日（木） 増田智栄子先生 県知事表彰受賞：国民健康保険事業

・平成26年11月22日（土） 浅井俊弥先生 神奈川県学術功労者表彰・川口賞受賞

（文責：渡辺知雄）



地域医会だより

鎌倉市皮膚科医会

女性医師6人、男性医師2人で構成されています。

今年度の活動はありません。

(文責：原 尚道)



地域医会だより

藤沢市皮膚科医会

【活動概要】

日 時：平成26年3月19日（水）午後7時30分～

*当日中止

日 時：平成26年7月16日（水）午後7時30分～

会 場：湘南クリスタルホテル

テーマ：「皮膚真菌症」

講 師：東海大学医学部専門診療学系皮膚科学准教授 生駒憲広先生

日 時：平成26年11月26日（水）午後7時30分～

会 場：湘南クリスタルホテル

テーマ：「常識を見直そう：汗とスキンケア」

講 師：杏林大学医部皮膚科教授 塩原哲夫先生

(平成26年3月19日に予定していましたが、当日講師体調不良につき中止となったものを、11月にお願いして講演していただきました)

(文責：小林誠一郎)

○ ○ ○ ○ ○
地域医会だより

川崎市皮膚科医会

【他医会との合同講演会】

・耳鼻咽喉科医会と共催

日 時：平成26年6月28日（土）

テーマ1：「花粉症と皮膚疾患～眼瞼炎とOASを中心に～」

講 師1：浅井皮膚科医院院長 浅井俊弥先生

Break Time ～蝶に魅せられて～：

望月耳鼻咽喉科医院院長 望月元博先生

北里大学医学部名誉教授 西山茂夫先生

テーマ2：「よく見る口腔粘膜疾患」

講 師2：北里大学医学部名誉教授 西山茂夫先生



【川崎市皮膚科医会第12回定時総会・第19回川崎市皮膚科医会例会学術講演会】

平成26年10月1日（水）にホテル精養軒（武蔵小杉）にて、第12回川崎市皮膚科医会定時総会・第19回川崎市皮膚科医会例会学術講演会を開催しました。

総会は望月明子会長の挨拶の後、日本鋼管病院皮膚科部長の石橋正史先生が議長として選出され、第1号議案「平成25年度会務報告に関する件」以降、第5号議案「役員人事に関する件」まで円滑に承認され無事終了しました。

講演会は、帝京大学附属溝口病院皮膚科教授、清佳浩先生の座長で下記のご講演をいただきました。

一般講演：「わすれないで猫からのM.canis 感染症」

講 師：帝京大学附属溝口病院皮膚科 萩原ゆかり先生

特別講演：「皮膚腫瘍と円形脱毛症の治療と毛包幹細胞からの基礎研究について」

講 師：北里大学皮膚科教授 天羽康之先生

それぞれわかり易い内容で、参加いただいた多数の先生方にもとても役立つ講演会でした。

（文責：井上奈津彦）

【川崎市市民公開講座ならびに皮膚の健康相談】

日 時：平成26年11月16日（日）

会 場：ミューザ川崎シンフォニーホール

・市民公開講座

テーマ：「そのほくろ大丈夫?? 皮膚がんを自分で早期発見するには」

講 師：東邦大学医療センター大森病院皮膚科教授

石河 晃先生

主 催：川崎市皮膚科医会

共 催：川崎市医師会、持田製薬株式会社

後 援：川崎市



参加者：80名

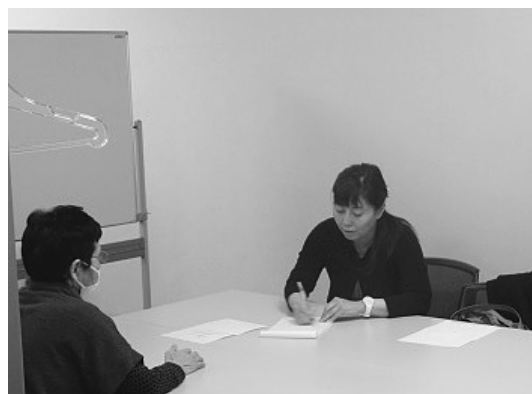
18年前、望月皮膚科を受診し、日本鋼管病院の石河先生を紹介して、足底のメラノーマをopeして頂いた横田滋さんが早紀江夫人と講演を聞きにいらして、「お二人は命の恩人です」とおっしゃって下さいました。疲れて寝転がった滋さんの足の裏のほくろに気付いたのは早紀江さんだったそうです（横田夫妻に掲載の許可を得ています）。

・皮膚の健康相談

相談者：25名

相談医：清 佳浩先生、井上奈津彦先生、宮川俊一先生、渡部秀憲先生、大澤純子先生、黒澤真澄先生、石橋正史先生、大塚知子先生

相談者の中にメラノーマ疑いの人が出て、帝京大学溝口病院の清佳浩教授を受診し、確定診断に至ったそうです。皮膚の健康相談が役立ちました。



(文責：井上奈津彦、望月明子)



地域医会だより

三浦半島皮膚科懇話会 横須賀市医師会皮膚科部会

【第46回三浦半島皮膚科懇話会・第29回横須賀市医師会皮膚科部会 学術講演会】

日 時：平成27年2月7日（土）午後5時45分～

会 場：メルキュールホテル横須賀

製品説明：「ベピオゲル[®]ゲル2.5%」マルホ株式会社

特別講演：「ざ瘡治療最前線」

座 長：金丸皮膚科 金丸哲山先生

講 師：国家公務員共済組合連合会虎の門病院皮膚科部長
林 伸和先生

カリキュラムコード：9（医療情報）・26（発疹）

共 催：三浦半島皮膚科懇話会、横須賀市医師会皮膚科部会、
横須賀市医師会、マルホ株式会社



【講演概要】

ざ瘡治療最前線

虎の門病院皮膚科部長 林 伸和先生

近年の日本のざ瘡治療の進歩によって、治療の目標や治療対象となる患者も変わってきている。私が皮膚科医になった平成元（1989）年には、ざ瘡の治療は、抗菌薬の内服、イオウカンフルローション、ビタミンB₂、B₆が主体であった。その後、ナジフロキサシン、クリンダマイシンなどの外用抗菌薬がざ瘡に対して承認されたが、治療法の中心は内服あるいは外用の抗菌薬であり、治療の対象は抗菌薬の内服や外用が必要な炎症性皮

疹をもつ患者であった。当時は、面皰のみの患者は治療方法がないため、洗顔指導やビタミン剤投与で対応されていた。

平成20（2008）年になりアダパレンが登場して、面皰に対するエビデンスがあり、保険が適応される治療法が確立した。時を同じくして、日本皮膚科学会の尋常性ざ瘡治療ガイドラインが作成され、面皰が主体であればアダパレン、炎症性皮疹が主体であれば、その程度によりアダパレンと外用抗菌薬、あるいはアダパレンと内服抗菌薬の組み合わせによる治療が強く推奨された。さらに、炎症が軽快した後のアダパレンによる維持療法についても強く推奨している。

維持療法として炎症性皮疹の予防目的に長期間使用できる薬剤、面皰を主体とする早期の患者にも治療ができる薬剤が導入され、従来よりも軽症の患者や症状軽快後の患者にも適切な治療を行うことが可能になった。

欧米では薬剤耐性ざ瘡桿菌が50%を超える国もある。日本における薬剤耐性ざ瘡桿菌も次第に増えつつある。抗菌薬による維持療法は、耐性菌の問題から推奨できない。耐性菌を作らないためにも適切な維持療法、すなわちアダパレンを用いた面皰予防が現時点の最も推奨できる維持療法である。海外では過酸化ベンゾイルが耐性菌に対する予防と対策として用いられている。日本においても従来のような間欠的な抗菌薬の使用を避け、適切な維持療法を行うことが求められている。

また、ざ瘡瘢痕を気にしている患者は少なくないが、瘢痕は炎症によって生じた不可逆性の線維性変化であり、現時点では瘢痕を元に戻す治療法はない。炎症性皮疹は軽度であっても瘢痕が残ることが知られており、可能な限り炎症性皮疹を予防することが最も重要なポイントとなる。

現在では、従来と異なり、面皰の段階での治療、炎症軽快後の治療継続が重要視されていて、従来が悪化時に対する治療とはコンセプトが変わってきている。この変化を実感していただき、是非、より早期の積極的な治療と、症状軽快後の適切な維持療法を実践していただきたい。

（文責：金丸哲山）



地域医学会だより

小田原皮膚科医会

【小田原皮膚科医会学術講演会】

日 時：平成26年 6月5日（木）

会 場：報徳二宮神社 報徳会館

テーマ：「治らない、治せない、治さない－湿疹・皮膚炎・アトピー性皮膚炎－」

講 師：湘南皮膚科院長 栗原誠一先生

座 長：日下部皮膚科医院院長 日下部芳志先生

参加者：25名

【小田原医師会・足柄上医師会合同学術講演会】

日 時：平成26年 9月18日（木）

会 場：おだわら総合医療福祉会館

テーマ：「小児・高齢者の皮膚疾患に対するポイントレクチャー」

講師：東京医科大学皮膚科主任教授 坪井良治先生

座長：日下部皮膚科医院院長 日下部芳志先生

参加者：42名

前会長の栗原先生のご講演では、プロトピック軟膏の刺激を軽減させる裏技を伝授していただきました。

坪井教授は、学生時代を思い起こさせるホワイトボードを使ったご講演で、内科、小児科の先生方がメモを片手に熱心に聞き入っておられました。

本年度の学術講演会は、9月17日（木）に国立感染症研究所ハンセン病研究センターのセンター長石井則久先生に、疥癬に関するご講演をしていただく予定になっております。

（文責：相川洋介）



地域医会だより

茅ヶ崎医師会皮膚科部会

【症例検討会】

日時：平成26年9月9日（火）

会場：茅ヶ崎市立病院皮膚科外来

講師：茅ヶ崎市立病院皮膚科部長 池澤優子先生

（文責：小野秀貴）



地域医会だより

平塚市医師会皮膚科部会

【第65回例会】

テーマ：「水疱症治療の最前線～ステロイドに頼らない治療を求めて～」

日時：平成26年5月21日（水）

会場：グランドホテル神奈中平塚

司会：平塚市民病院 木花いづみ先生

基調講演：「プロトピック軟膏—注意書きの読み方—」

講師：湘南皮膚科 栗原誠一先生

特別講演講師：慶應義塾大学医学部皮膚科学講師 山上 淳先生

特別講演要旨：

天疱瘡や類天疱瘡などの自己免疫性水疱症の治療には、ときとして難渋する。平成22（2010）年に発表された天疱瘡診療ガイドラインは、治療の目標を少量のステロイド内服（プレドニゾロン（PSL）0.2mg/kg/日または10mg/日以下）のみによる寛解の維持にしている。そのためには、病初期に集中的かつ十分な治療により病勢を制御することが重要で、重症・中等症においてはPSL1mg/kg/日が標準的投与量として推奨されている。初期治療で2週間ほど経過を見て、効果が不十分な場合は、血漿交換療法、ステロイドパルス療法、免疫グロブリン大量療法（IVIG）の追加を検討する。

本講演では、ガイドラインに準拠した当科での天疱瘡の治療経験を中心に、IVIGなどを併用してステロイドの副作用を最少限に抑えながら、寛解率を上げる工夫について解説した。また、抗CD20療法など、将来の自己免疫性水疱症治療の展望について述べた。

症例報告①：「日光角化症と思われた紅斑性天疱瘡の1例」

講師：平塚共済病院 渡辺雪彦先生

症例報告②：「胃癌に合併した水疱性類天疱瘡」

講師：平塚市民病院 藤尾由美先生

情報交換会：

出席者：47名

共催：平塚市医師会皮膚科部会、マルホ株式会社

【第66回例会】

テーマ：「こどもの皮膚トラブルの診かたについて」

日時：平成26年9月17日（水）

会場：グランドホテル神奈中平塚

司会：平塚共済病院 前田修子先生

製品紹介：「抗アレルギー剤 タリオンについて」

特別講演講師：総合母子保健センター愛育病院 山本一哉先生

特別講演要旨：

子どもの病気は養育者（母親）が気づいて、医師の元に相談に訪れることが多い。つまり、本人はすべてを母親に任せている、治療の主体も母親である、とすれば母親とのコミュニケーションの良否が大きく治療の結果に影響する。しかも皮膚のトラブルは問題の多い母親にも見えているわけで、これが小児科の疾患とは根本的には異なる。母親が医師の治療方針を理解し、それを守ろうと考えるようにしむけるのには、少しコツがあると感じているので、その一端を述べてみたい。

情報交換会：

出席者：49名

共催：平塚市医師会皮膚科部会、田辺三菱製薬株式会社

【第67回例会】

テーマ：「これで良いのか乾癬治療？」

日時：平成27年1月21日（水）

会場：平塚プレジール

司会：湘南皮膚科 栗原誠一先生

基調講演：「ニキビ治療に必要な生活指導と薬剤説明」

講師：いずみ野皮膚科 増田智栄子先生

特別講演講師：東海大学医学部専門診療学系皮膚科学教授 小澤 明先生

特別講演要旨：

乾癬の根本治療はまだ確立していない。従来の外用療法（ステロイド、Vit D3）、全身療法（エトレチナート、MTX、シクロスポリン）、光線療法（PUVA、narrow-band UVB）などの治療に加え、ここ数年で、生物学的製剤（皮下注、静注）、ステロイドとVit D3との配合外用薬が加わってきた。演者の大学病院乾癬外来40年間の経験から、その問題点、これからの展望などについて述べた。

東海大学での解析では、治療を継続することで重症度は改善したが、それと同時に、治療がどんどん強力になる傾向、臨床治験の影響と弊害、長期観察の評価、医療行政の変化などの多くの課題が挙げられた。

乾癬の治療では、もう一度、臨床医学の原点に戻り、病態、治療、生活指導、予防に対して、厳しい皮膚科医の眼により、それらの知見を、正しく評価し、それを治療に還元することが大切である。そのためには、まずは、皮膚科医として、乾癬の治療法を習熟し、責任と誇りをもって、経済的要因も含めて、患者の要望に応えなければならない。

症例報告：「平塚医師会皮膚科部会例会 症例提示」

講師：平塚市民病院 福島彩乃先生

情報交換会：

出席者：40名

共催：平塚市医師会皮膚科部会、ガルデルマ株式会社、塩野義製薬株式会社

（文責：前田修子）



地域医会だより

厚木市皮膚科医会

平成26年度報告

【皮膚科医会例会】

・第36回厚木市皮膚科医会例会

日時：平成26年7月3日（木）

会場：レンブラントホテル厚木

特別講演：「常識を見直そう：汗とスキンケア」

講師：杏林大学医学部皮膚科教授 塩原哲夫先生

・第37回厚木市皮膚科医会例会

日時：平成26年11月13日（木）

会場：レンブラントホテル厚木

特別講演：「エビデンスに基づく抗ヒスタミン薬の使い方」

講師：東京女子医科大学皮膚科学教室教授 川島 眞先生

【厚木愛甲地区専門校医（相談医）事業】

委員会参加。FAXメール相談。

講演に関しては、日皮会東京支部の協力が加わり、「今後、講演者選出、講演料の援助等が見込めるため、ぜひ希望を上げてください」と答申。

【厚木市医師会医療フェスティバル】

実行委員会参加。本年度は実行委員会のみ。

(文責：小幡秀一)



地域医会だより

丹沢皮膚の会

現在、活動を休止しています。

(文責：山本 修)



地域医会だより

相模原市医師会皮膚泌尿器科医会

【学術講演会】

日 時：平成26年4月23日（水）

会 場：小田急ホテルセンチュリー相模大野

テ ー マ：「食物アレルギー・アナフィラキシー対応について」

講 師：昭和大学医学部小児科学講座講師 今井孝成先生

日 時：平成26年6月25日（水）

会 場：ホテルザエルシー町田

テーマ①：「カポジ水痘様発疹症に対するファムビル錠の使用経験」

講 師：北里大学医学部皮膚科講師 安藝良一先生

テーマ②：「北里大学病院皮膚科における脱毛症と皮膚腫瘍の治療実績と基礎研究への取り組み」

講 師：北里大学医学部皮膚科主任教授 天羽康之先生

日 時：平成26年9月3日（水）

会 場：小田急ホテルセンチュリー相模大野

テ ー マ：「ニキビ治療の問題点と外用指導のコツ」

講 師：神戸小林皮膚科医院院長 渡辺雅子先生

日 時：平成26年10月8日（水）

会 場：ホテルラポール千寿閣

テ ー マ：「痛みの薬物治療」

講 師：北里大学医学部附属新世紀医療開発センター疼痛学教授 金井昭文先生

日 時：平成26年12月7日（日）

会 場：関内新井ホール

テ ー マ：「脱毛症」

共 催：神奈川県皮膚科医会第146回例会

日 時：平成27年2月4日（水）

会 場：小田急ホテルセンチュリー相模大野

テ ー マ：「湿疹・皮膚炎群診療の実際」

講 師：北里大学名誉教授 勝岡憲生先生

【研修旅行】

日 時：平成26年11月15日（土）～16日（日）

場 所：ベイコート東京

【その他】

北里大学皮膚科学教室の御厚意にて、平成26年11月1日（土）に相模原皮膚科学セミナー、平成27年3月5日（木）に北里臨床皮膚フォーラムに参加させていただきました。

（文責：大木 和）